

# 改訂の序

## 1. 頼りがいのある医師とは

本書の初版は、2001年にレジデントノートで掲載された特集をもとに、2003年に発刊された「ひとりで当直するとき役に立つ 小外科のコツ」である。おかげさまで、多くの若い先生方に愛されてきた。これも、本書の内容が、当直業務を求められる若い医師たちのニーズに適合していたためと自負している。

初版で強調したように、本書は、人間の営みの中で、日常的に求められる小外科のニーズにこたえようとしたものである。現代の医療では、生活に根ざした医療ニーズにこたえる診療というものが軽視されがちであり、一見、華やかな先端医療に目が奪われがちである。しかし現実には、医療ニーズのほとんどは日常的なものであり、実際に頼りがいのある医師というものは、こうした普遍的なニーズにこたえられる医師である。そうした普遍的なニーズにこたえることができる内容をめざしてこの書は編集されたものである。

## 2. 新しい潮流の中で

臨床研修の必修化で、本書をめぐる環境は激変した。従来は、駆け出しの研修医がひとりで市井の中小医療機関で当直することもめずらしくなかった。しかし、必修化後は、臨床研修の専念義務のため当直のアルバイトは禁じられた。ただし、救急医療は、ますます臨床研修制度の中で重要視されるようになった。さらに卒後3年目からの医師にとっては、本書に求められるような医療を実践できる能力は、ひとりで自律的に診療できる能力や後輩指導が期待される点で、以前より高く求められている。若い医師が日常的で普遍的な医療ニーズにこたえられることが、社会的にもますます強く求められるようになったのである。

本書の取り扱っていることは、もともとこうした普遍的な医療ニーズに対応するものであるから、求められる内容も本質的には以前と変わらない。しかし、激動する医療環境の中で、強調すべき点、忘れてはならない点といった面で、改訂の要請が高まってきた。たとえば、安心で安全な医療という点からみた配慮などは、同じ内容に関することであっても、改訂版ではより強く意識した。

## 3. 当直の友としての本書

本書が最初に刊行されて月日も経過した。編者も大阪大学から京都大学に異動して新しいキャリアを積んでいる。各章を執筆した執筆者たちも、いろいろなキャリアを歩んでいる。こう

した執筆者の歩みも読者のみなさんにはささやかなメッセージになるのではないかと考えている。当直の夜の暇つぶしのために挿入した歴史こぼれ話も、意外に反響があったので、一部、補充したり入れ替えさせていただいた。

本書がますます現場で活用され、当直室の友となり、読者に愛されるものとなることを期待したい。

2009年 7 月

平出 敦